

〔北條五代記〕伊豆早雲平氏茂由來之事
聞しはむかし。いせ新九郎氏茂といふ侍、遠國より來て、伊豆の國を切て取よし。ひ傳ふといへども、多說有ていづれ知がたし。○略中此人の先祖を尋るに、むかしいせの國に、伊勢いせのかみ平氏貞といふ侍あり、小松内大臣重盛公より十五代の後胤たり、國の名をあざなの上におく事侍の名譽といへり。

〔菊池傳記三〕菊池武經滅亡事

日向國高知保に、甲斐大和守親宣、同民部大輔親直といふ者あり。

〔閑田次筆一紀實〕世にことなる苗字稱號なごは、大かた郷里の地名なり、和田の親族に、朝比奈の三郎といふは、人よく其名を忘れり、こは和名抄安房國の郡名に、朝夷トシヘイと書て、あさひなとよめる有、そこを領せられしにや。

〔筆のすさび三〕在名 庶人は在名を名乗ることをゆるされず、然るを姓を禁すといふは玄からず、源太郎平二郎皆姓なり、誰も咎められし人なし。秩父熊谷○並武藏地名なごは在名なり、これには禁あり、今座頭盲目に在名といふ格あるにても玄るべし。

〔新安手簡〕江戸等家系ノ事、丸山殿へ御尋子合セラレ下サルベク候。新田家ノ祖義重ヲ新田ト稱シ候ハ、タシカニ上西門院ノ御料ニ、新田ノ庄ヲ開カレ候テ、其庄官ニナシ下サレ候様ニ見エ候ガ、越前淺倉ノ祖、黒丸入道ナドモ、一條家ノ黒丸ノ庄ヲ預ラレ候ヒショリ、彼國ニ竊據シ候事ハ、一條ノ裝束抄ノ内ニモ見エ候。

〔尊卑分脈六〕宗圓

宇都宮座主 宇都宮小田等祖

〔肥陽軍記〕蒲殿九州下向之事